

# 平成30年度 里・上甗地域 まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 平成30年5月16日（水）13：30～15：30

ところ 里公民館 多目的ホール

出席者 市 : 市長

企画政策部長、市民福祉部長、商工観光部長、観光・スポーツ対策監、農林水産部長、建設部長、教育部長、危機管理監、ひとみらい対策監、里・上甗支所長、里・上甗地域振興課長、上甗島教育課長、地域政策課長、甗はひとつ推進室長、広報室長、外

地域 : 里・上甗地区コミュニティ協議会長をはじめとする

地区住民 76名

(合計94名の参加)

## 議 題

### 議題1 里地区)

#### 観光を中心とした活力ある地域づくりについて

平成27年3月に甗島が国定公園に指定された。また、ボンビーガール（柴田美咲さん）等のテレビ放映によって全国への知名度を上げ、観光客の来島数は伸びている。更に観光関連産業等や従来からの地域産業等の進展を図り、観光を中心とした地域づくりのため、次の3点について検討いただきたい。

- ① 全国でも珍しいトンボロ地形の景観が望める林道嶺線のビューポイント展望所を設置し、周辺道路の整備をお願いしたい。

#### 【背景】

最近、この周辺道路はトンボロ地形を見るための観光客の利用が多く、観光バスやレンタカーが頻繁に通る道路になっている。しかし、小さなカーブが多く、離合箇所もほとんどなく、道路の片側はガードレールがない等、車の通行には支障が多い道路である。事故が起こらないうちに早急に市道に格上げし、カーブの修正や離合箇所の整備、道路の拡幅改良等に取り組んでいただき、せっかくの観光資源のこの人気スポットに、展望所を設置していただきたい。

また、地元集落から風力発電の方向に上る道路の中間点付近に半径の小さいカーブの小型バスがぎりぎりを通る難所があり、ここを通る度に乗車している観光客らもひやひやしている状況である。

② 里町の各事業所においては、人手不足が生じており、雇用の確保が喫緊の課題となっている。平成30年4月から商工会青年部を主体とした上甕島雇用・移住対策協議会を発足させることになっているが、市においても特定有人国境離島法等を活用するなどして力添えをお願いしたい。

#### 【背景】

島外からの移定住者においては、離島での生活には医療・教育面での不安や生活コストが高いこと等が移定住の際の大きな障害となっていると思われる。住民税非課税措置や上下水道料金等の生活費助成、研修制度の支援など、直接的な金銭面での支援策等を検討いただきたい。

また、移住しやすい環境整備として、現在、空き家のリノベーション対策は取り組んでいただいているが、取り壊さなければならないような家屋があった場合、それを処理する際の本土への運搬経費が高く処理が進まないという現状がある。

これらの課題に特定有人国境離島法等を十分に活用して、思い切った特別な支援策に取り組んでいただけないか。

③ 里港待合所の拡張と、利活用の検討をお願いしたい。

#### 【背景】

里港待合所は藺牟田瀬戸架橋が完成すれば、鹿島からの乗降客も増え、ますます混雑が予想される。特に真夏の多客期には待合所が一杯になり、屋外で待機せざるを得ない乗客が多数出ることが予想される。待合所の更なる拡張が必要である。

また、待ち時間、空き時間等にはほとんど活用されていないので、ICT等を利用し、十分活用されるような内部施設配置の工夫も必要である。

「観光船かのこ」が荒天で運行できない時の観光客に対する工夫（例えば、通常運行時の観光船かのこの運航の状況のビデオ放映や日本有数と言われる下甕島西海岸の景観や地層などの説明、透明感のある海中の状況などを迫力あるドローン映像で撮影しそのビデオ放映を流すなど）や上甕島内の散策コースや方法等を解りやすく紹介するビデオの放映、観光ガイドの席を設置する等、観光客に対する細かい気配りも必要と思われる。

利用価値があり賑わいがある活気あふれる待合所に拡張・利活用等をお願いしたい。

#### 【建設部長】

① について建設部から回答する。

御要望の箇所については、高台で非常に眺望も良く観光客も増えているとお聞きしている。市長も現地を確認した。

当該箇所については、2本の市道と林道嶺線からなる周回道路となっている。林道を市道に格上げしてということであるが、今のところ林道を市道に編入する考えはないが、同じ市の道路であるのでそれぞれの道路管理者（林道は林務水産課、市道は建設維持課）が連携をしながら繁茂した雑草の伐採あるいは樹木の枝払い等は継続して実施して参りたい。

全体的に幅員が狭くカーブも急な箇所が多い。まずは、蓋の付いていない側溝がかなり長い距離あるので、蓋付きの側溝に変えていくことを実施して参りたい。また、用地が協力いただけるような場所については、用地買収、登記事務を踏まえて待避所や離合場所を設けていければと考えている

近く支所も含めて地元の関係者と再度現地調査をし、着手できるところから順次進めていければと考えている。

展望所については、予算的なことも含めて容易にはいかないが、眼下の見晴らしが損なわれないように山林地権者の御協力を賜りながら支障になる高木の伐採等を継続して実施していく。さらに、ベンチ等の設置ができるか等、関係課と協議をして参りたい。

#### 【商工観光部長】

② について、商工観光部から回答する。

なお、特定有人国境離島法については、企画政策部から回答する。

受付で配布したチラシを参照いただきたい。雇用・人手不足対策の関連事業について、平成30年度予算で甑島における人手不足対策を拡充した。例えばインターンシップ（就業体験）についての支援制度を設けたり、また、その他の制度も拡充した。

人手不足対策については、地元の皆様方が雇用・移住対策協議会を発足し活動しているが、人手不足対策は観光も同じであると考えている。ロコミで雇用・人手不足対策に係る補助制度をどんどん広げ、地域の魅力をつくり、事業所の魅力をつくるということからだと考えるので、チラシの内容を詳しく見ていただき、アピールをしていただきたい。不明な点は支所に問い合わせさせていただきたい。

#### 【企画政策部長】

② の有人国境離島法について、企画政策部から回答する。

昨年4月、領海の保全に寄与することを目的に有人国境離島法が施行された。甑島もこの法律の範囲に入っており、平成29年度から新たな交付金の事業が始まっている。

この交付金は、「航路運賃等低廉化事業」、「農水産物の輸送コスト支援」、「雇用機会

の拡充」、「滞在型観光促進事業」の4分野が対象となっている。全国では、年間約50億円が措置されている。

地域から要望の多い航路運賃の低廉化については島外から観光で訪れる方の運賃あるいは車を運ぶ航送運賃等、これらの運賃も下げられないか、県離島振興協議会及び全国離島振興協議会を通じて昨年から国へ要望をしている。まだ、実現に至っていないので、今後も引き続き要望して参りたい。

島外からの移定住者においては、医療・教育面での不安や生活コスト等、甕島ならではのハンディがあることは確かである。住民税非課税措置や上下水道料金等の生活費助成など、金銭面でも直接支払い策や廃棄物の輸送支援等、有人国境離島法を活用した特別支援をお願いしたいという御意見がある。

移定住者に関しては、新規制度や拡充した多くの補助メニューを取り揃えていることから、まずはこれらの制度を十分活用していただきたい。

その上で、島民の皆様にとって大きな負担となっている廃棄物処理の輸送支援等については、交付金の対象にならないのか、今後、国への要望を検討して参りたい。

#### 【商工観光部長】

③ について、商工観光部から回答する。

里港ターミナルは平成27年にリニューアルオープンをした。ターミナルでは年2回のイベント等も開催している。地元の方と観光客の交流の場として更なる利活用を図りたいと考えている。

藺牟田瀬戸架橋完成後の利用者増加については、市も同じ考えであるが、もう少し様子を見たいと考えている。

盆や正月時期の多くのお客様対応については、改善を図りながら進めていきたいと考えている。悪天候時の観光客が足止めを受けている中での対応は、薩摩川内市観光物産協会とも協議しながら利便性や満足度が高い施設の利活用を検討して参りたい。また、ビデオの放映については実施したいと考えている。

## 議題2 (上甌地区)

### 「甌ふれあいバスセンター」の整備について

藺牟田瀬戸架橋の完成や観光客等交流人口の増加に伴い、道路の安全対策や公共交通の維持・改善が急務な課題と思われる。

甌4町には、各々「甌ふれあいバス」「甌かのこゆりバス」が運行され、過疎化による利用者の減少はあるものの、観光客等交流人口の増加による島内交通の利便性の確保は不可欠なものとなっている。今後の交通体制の整備の中で手狭になることが予想される現在の車庫を含め、島内の公共交通が円滑に運行できるようバスセンターの整備を検討いただきたい。

#### 【背景】

現在、上甌島地区のバス発着所は旧中甌港待合所を中心に上甌地域と里地域への発着拠点となっている。この旧中甌港待合所はコシキテラスや観光船発着、荷物取扱所、バス発着所の複合施設として利用されているが、コシキテラスや観光船利用客が多いとき、また地域の利用者が通常利用するとき、バスの発着に支障があり、交通の安全・安心が危惧される。

については、現在の施設に隣接する漁港用地（現在は公園用地）を活用し、バスセンター等の施設整備ができないか御検討願いたい。

#### 【商工観光部長】

甌ふれあいバスを御利用いただき、感謝申し上げます。

旧中甌港待合所は、観光船かのこが10年前の約7倍の方々に御利用いただいております。コシキテラスについても賑わいを見せているところである。

本市の公共交通については、市地域公共交通網形成計画を策定しており、公共交通の在り方を検討している。

平成28年に甌はひとつ推進会議から市長へ提出された提言の中で、甌島地域のコミュニティバスの交通体系の再編については、藺牟田瀬戸架橋の完成や公共施設の再配置計画に伴い、観光客や交通弱者等の移動手段確保のため、効率的で利便性の高い交通体系が必要であると提言をいただいている。今後の動向を見ながら甌島の公共交通のネットワークの見直しをして参りたい。

見直しに係る調査に平成30年度から着手しており、その中で検討して参りたい。御提案いただいている現在の施設に隣接する漁港用地は、漁港漁場整備法の中で、バスセンターとしては整備できないということである。このようなことも踏まえながら、今後の在り方について検討して参りたい。

## その他意見・要望

### 要望

台風等災害時に避難所を使用しているとき、停電することも想定される。建設業界との提携で、災害時に業者が発電機を貸し出すことが可能となっているが、甑島では、多くの業者がいないことと、幹線道路が不通になったとき、発電機の搬送ができないことも十分想定されるので、避難所への発電機設置を要望するものである。

### 【危機管理監】

現在、甑島地域には、上甑支所管内16箇所を含めた45箇所を避難所として指定している。

台風等災害時において避難所の電源供給が遮断された際の発電機の提供に関して、鹿児島県建設業協会甑島支部と薩摩川内市が締結した「甑島における停電時の指定避難場所への発電機の提供に関する要領」により、鹿児島県建設業協会甑島支部に所属する事業所から電源（100ボルト）を確保できる発電機を提供していただけることとなっている。

ただし、提供できる発電機も数に限りがあるというのは認識しているが、平成30年4月現在、上甑島に20台あることを把握しており、全ての避難所が一斉に停電という可能性はない訳ではないが、現状として何とか対応できるのではないかと考えている。

参考までに、台風接近が予想される場合には、九州電力株式会社においては、停電等の発生時に備え、事前に社員や協力事業所社員を事前に派遣し待機する体制も構築されている。

本市としても、市内全ての避難所に発電機を配備することは予算的にも難しいところであるので、現状採り得る対策の中で最善の努力をして参りたい。御理解いただきたい。

### 要望

川内港及び串木野新港の官民設置の各駐車場並びに里港駐車場は、土日になると島民の車でいっぱいである。藺牟田瀬戸架橋の完成で里港はこれまで以上に車が駐車すると考える。

原因は航送運賃が高いためであり、この航送運賃が安くなればフェリーに乗車させる方が増え、各港の駐車場に車を止める方が減ってくる。島民は車を1台余分に購入しており、これが生活を圧迫している。

### 【企画政策部長】

有人国境離島法が平成29年4月に施行されて、島民（人）の運賃は下がってきた。

次の段階として、航送運賃（車）の低廉化については、昨年から県離島振興協議会及びに全国離島振興協議会を通じて国に要望している。

有人国境離島法の予算枠が全国で50億円となっている。航送運賃を下げるとなる  
と更に財源の確保が必要である。国としても検討されていると考えるが、まだ実現し  
ていない状況である。

航送運賃が下がれば、車の所有台数も減ることになり、また、何よりも物価が下が  
っていくということにつながる等、甑島に大きなメリットとなると考える。

今後も引き続き、粘り強く要望し、航送運賃の低廉化が実現できるように努めて参  
りたい。

#### 要望

上甑町内のバス停で、現在、整備されている江石のバス停が老朽化で危険な状態  
である。

また、中野地区のバス停だけが整備されていない状況である。甑島航路の定期船が  
上甑島では里港利用のみとなっており、上甑島民にとっては甑ふれあいバスを利用し  
て甑島商船を利用している状況であり、利用する島民にとっては、雨等をしのぐバス  
停の整備が望まれている。主要バス停の整備で特に、江石のバス停改修と中野地区の  
バス停設置を要望する。併せて、小島地区のバス停も老朽化しており、これについて  
も検討をお願いしたい。

#### 【商工観光部長】

現在、市内にはバス停が477箇所あり、この内、上屋を設置しているものが59  
箇所ある。上甑地域にはバス停が22箇所あり、うち9箇所上屋が設置されており、  
上屋が設置してある割合が高い。

現在、市では乗り継ぎ拠点となる箇所から整備をしている状況である。

整備を進めていく上で、重要な点として乗降客が多いバス停を優先して整備してい  
る。江石では1日4人未満、中野が1日2人未満という実績である。乗降客が少ない  
ところではあるが、危険な状態であるという御意見をいただいたので、それについて  
は、何らかの改善を検討して参りたい。

なお、整備については優先順位がある。御理解いただきたい。

#### 要望

- ① 津波避難時に避難する高台に、避難生活を送るための施設整備ができないか。
- ② 避難・非常時に使用する持ち出し袋を全戸配布できないか。
- ③ 高齢者や障害のある方々等の避難困難者がスムーズに避難できるように、車いす、  
送迎用の車の配備ができないか。

## 【危機管理監】

- ① 現在、市では避難所の位置や施設状況・配置数、公共施設再配置計画等を含めた調整・整理を併せて行う必要があり、今後の研究課題とさせていただきたい。

もし仮に津波被害がある場合は、まずは高台等へ避難していただくことが重要である。里地区が非常に大きな津波に襲われた場合、ほぼ利用できる施設が残らないことが想定されるので、支援が行き届く中での対応としては、本土への一時避難が有効な対策かと考えられる。

その後は、再建に向け、仮設住宅なのか復興住宅なのか、その後のビジョンに基づき検討していくことになると考えられる。

まずは日頃から、津波が予想される場合、どこに避難するのか、経路はどのルートが短時間で避難できるか、自分の身を守る行動を取れるよう取り組んでいただければありがたい。

市としては、津波避難施設の必要性についても検討を進めているところであり、今後も一緒に考え、対応について検討させていただければと考えている。

- ② 避難袋（非常用持出袋）を全戸（各家庭）に配布する事業がないのが現状。避難袋の中身についても、必要とするものが各家庭で異なる。避難袋（非常用持出袋）も、これまでも市民の皆様に「自助・共助・公助」の中の「自助」として非常持ち出し品の準備をお願いしており、各家庭・各個人で準備して下さるよう御理解・御協力をお願いしたい。

- ③ 現在の所、防災の観点から、障害のある方の避難時等に使用する車椅子等の購入に対する補助事業はない。

なお、自主防災組織等への助成事業として、「宝くじの社会貢献広報事業」の中の「コミュニティ助成事業」で資機材等の助成がある。ただし、申請したから必ず採択されるとは限らない事業である。あくまでも自主防災組織育成のための施設や設備等に助成される事業であり、各家庭に配備・配布される事業ではない。資機材整備事業として、例えば車椅子やアルミ製リヤカー等の人員搬送資機材の申請は可能だと思われる。ただし、車両についてはこの助成事業の対象ではない。御相談等は、防災安全課まで問い合わせいただきたい。

## 【市民福祉部長】

- ③ について、市民福祉部から情報提供させていただきたい。

障害のある方等が地域におられて、避難等の際に御苦労されていることは認識している。身体障害者手帳を持っている方であれば、日常生活用具として給付を受けることができる。避難時あるいは日常生活においても何らかの補助用具が必要な方は、早めに給付を受けていただいて、避難のときには本人のお持ちの物を使って、避難できるのではないかと考える。加えて、家族がおられ車で避難される場合は、車の改造費等の制度も利用できると思う。



更に避難時の要支援者に対する支援制度を設けている。地域で津波に限らず災害等に関しても避難時に介助が必要な方については、事前登録していただき、併せて、誰が介助に行くのか等地域で話していただければありがたい。

#### 要望

藺牟田瀬戸架橋の早期完成が望まれているが、県道桑之浦里港線の中甑地内の道路、すのさき荘前と中津幼稚園前の県道カーブが直角に曲がっており、大型車の通行時はガードレールに接触する等、非常に危険を伴う状況である。藺牟田瀬戸架橋が完成すると、多くの観光客が甑島を訪れることが十分想定されるので、完成前に、前記の2箇所の県道急カーブの改修対策を強く要望するものである。

#### 【建設部長】

この区間については、これまでも市議会の本会議や前回の懇話会でも議題として上がっている。地元にとっては大きな課題・懸案となっていることは十分承知している。

それを受けて、市から県へ何回となく要望・相談に出向き、また、支所職員も地権者へ当たっている状況である。しかしながら、用地取得に対しての御協力が得られていないことが実情である。

これまでは、県にお願いして路面にカラー舗装等の注意喚起を実施していただく程度のことしかできておらず、申し訳なく思っている。

ルートを大幅に変更すること、例えば中学校側に橋を架けるのか、その他の市道を拡幅するのか等考えたが、膨大な費用が掛かることや色々な補助が適用できるのかというようなことがあり、実現していない状況である。

藺牟田瀬戸架橋が完成すると間違いなく交通量が増加する。再度、地元の声や整備の必要性を北薩地域振興局甑島出張所にも相談をして参りたい。また、新たな展開を模索していく必要があると考えている。時期が時期だけに、今後も要望に努めて参りたい。

#### 要望

里港では夏時期の船便については、観光客、帰省客に前日から整理券を取るために並ばせていて、地元の人からいつも、苦情を聞いている。

対策として、高速船甑島をピストンできないか、観光船かのこを提供いただけないか、島風等の遊漁船を活用する等の増便ができないだろうか。

今年の夏から、前日から整理券を取るために並ばせるということを解消していただきたい。

#### 【商工観光部長】

日頃から苦情をお聞きいただき、申し訳なく思っている。

8月14日～17日までの旅客船の発売方法については、色々改善されていることは認識している。

乗船者について調査したので御報告する。平成29年8月11日～17日のうち、フェリーの定員は400人であるが、乗船者が300人を超えた日は、14日だけで369人、一方の高速船甌島は、定員200人に対して、124人の乗船者であった。フェリーと高速船を組み合わせると乗船できないという状況は年に何回かはあるが、このような現状であるということに共有したいと考えている。帰省された方が、わざわざ並ぶことについて苦情があることは認識しており、何とかしたいと考えているが、フェリーと高速船の乗船者のアンバランスな部分も見えてきている。

御要望のあった観光船かこのについては、今夏はすでに予約が入っている。予約を取らないように等の手段が取れるかもしれないが、定期航路ということで、難しいと考える。また、遊漁船については、遊漁船登録をするなど、様々な手続があり、また、費用も掛かる。その部分を除いて考えてみたときに、4便化という御意見もあるが、現在、8月のお盆時期は通常2便を増便して3便化している。4便になると、夜遅くなるため、現実的には簡単にいかないと甌島商船は認識している。

なお、高速船甌島は2カ月前から予約ができる、現状ではまだ空きがあるということと、実際並んで苦情を言われているという現場とのギャップを何とかしたいと考えているので、引き続き支所からも意見を聞きながら、島民や旅行客にできるだけ負担にならないようにもう少し調整させていただきたい。甌島商船とも十分対話しているので時間をいただきたい。

#### 【農林水産部長】

遊漁船の活用ができないかについて、農林水産部から回答する。

遊漁船とは船釣り業、瀬渡し業などを生業とする方々であり、遊漁船業を行うためには県の許可を受けなければならない。

県が許可した内容以外の業務を行うことは、市として推奨することは難しいということをお理解いただきたい。

#### 要望

長目の浜等の海岸清掃は業者委託をしているが、上甌県民自然レクリエーション村周辺の海岸と平良から中甌方面の海岸清掃は業者委託となっていない。平成27年3月に国定公園に指定されたが、地区コミや各自治会活動によって年1～2程度、ボランティア活動で海岸清掃しているのが現状である。地域は高齢化が進行し、海岸の玉石の上を歩きながらの作業がかなりの重労働になっている。今後、藪牟田瀬戸架橋が完成すると、観光客の増加も見込まれるので、おもてなしの一面からも、いつもきれいな甌島の海岸を発信できるように、業者委託を検討していただけないか要望するものです。

【市民福祉部長】

現在、海岸清掃は里・上甕地区の自治会の皆様方が毎月あるいはクリーン作戦等で定期的を実施していただき、地域のボランティア協力に頼っているのが実情である。

業者の委託については、国・県からの年間約1千万円の補助金等を活用してごみの回収と搬出等の業務を業者をお願いしている。実施する地域等については、支所及び林務水産課に実施活動を調整いただき、おもてなしという言葉も出たが、例えば甕大明神の近くであったり、目に付くような部分であったり、優先すべきところの調整を行いながら実施している状況である。予算に限りがある中で、地域から要望のある箇所、優先すべき箇所等をより一層、調整した上でおもてなしにつながるように対応して参りたい。

市が苦慮している部分は、海岸の清掃が県の所管業務でありながら、県等からの補助金を使つての事業しかできていないので、その点は御理解いただき、優先すべきところを皆様と協議しながら進めさせていただきたい。御理解いただきたい。

要望

上甕地区も高齢化率が50%を超え、介護を受ける高齢者も増加している。

介護サービスを受けるために、上甕ではこしき園、その他甕島内の各施設や本土の施設や病院に入所している。

聞くとところによると、こしき園では常時20人前後の待機者がおり、施設入所ができないあるいは、入所を希望しない高齢者もいる。このような方々も含めて在宅における介護の対象になるのではと思われる。

このように、自宅での介護も増えている状況であり、在宅介護者等に対するアドバイスや研修会を実施することにより負担も軽減されるので、地元での講習や研修を開催していただきたい。

【市民福祉部長】

在宅での介護が、今後の高齢化福祉の中で中心になっていくと思われる。その中で、甕島地域でも他の地域においても同様であるが、介護を担う方々が少ないことでサービスが十分に提供できないということがある。

要望されたように、家族の中で介護している方々に、少しでも負担がない方法や気を付けること等、具体的な講習・研修について、内容等をお伺いし、それらの講習会が開催できるように市でも取り組んで参りたい。近く、問い合わせいただきどういったことができるのか等、話をさせていただきたい。

要望

甕島の水産業は市からの支援として、本土地域に出荷する際の輸送補助や毎月開催

されている川内・甑とれたて市の実施等、多くの支援をいただいている。感謝申し上げます。

現在、水産業は非常に厳しい状況にある。燃料の高騰、漁獲量の減少、魚価の低迷等により、漁業経営者は悲鳴を上げている状況である。

市が誕生してから甑島には必要以上に目を向けていただき、藺牟田瀬戸架橋の建設や国定公園の指定等、将来の甑島のことを見据えてのことと感謝している。観光面においては、土産店の建設や民宿設備の経費等に対して、多大な支援をしていただき、観光産業の育成に力を入れていただいていることにも感謝申し上げます。

市長をはじめ、関係部署の方々がどのように考えているか分からないが、地理的条件からしても、海に囲まれた甑島の観光は、水産業と共に成長し、水産業が衰退してしまえば成り立たないと考えている。

先程も申し上げたが、現在の水産業は非常に厳しい状況にある。漁業経営者も経営不振に陥っているところが少なくない。なかには「今後の見通しが立たないので跡継ぎ(後継者育成)は考えていない」と言っている漁業者も存在している。

水産業に対する支援が全くないわけではないが、老朽化した漁船を廃船にして新船を建造することはもつての外、10年を経過したエンジンのボーリング整備等さえ借金をしながら実施する等、非常に厳しい状況である。現役の漁業者が事業を継続していけるために観光産業並みとは言わないが、現在の甑島水産促進補助金制度を使い勝手の良い制度に見直していただき、漁業者の負担を軽減していただけないものか。そうすることで投資面が解消でき、漁業を継続することができ、先々には漁業を営んでみようという若者も出てくることも期待するところである。

観光産業と水産業が共に成長していくことが望ましいと考えることから、要望したところである。

#### 【農林水産部長】

甑島地域において、水産業が重要な産業であることは十分理解している。併せて、経営状況が非常に厳しいことも理解しているところである。

市はこれまで甑島地域において水産業の一助となるように各事業を展開している。その一端を紹介する。

平成19年から水産専門員を配置し、情報収集や漁業集落への指導等を行っている。

また、水産資源の回復・維持等について、各種事業を活用して、マダイ・ヒラメ・アワビの放流を継続的に実施している。また7漁業集落では漁業の生産量の向上や漁場の活力向上策等への取組に対する支援を継続的に実施していただきながら漁業集落の活性化に繋げていただいている。

水産物の高付加価値化については、平成25年度～平成27年度まで甑島水産加工活性化協議会への支援を行っている。その中で、キビナゴ等の加工の開発や販路拡大等への取組みを行うとともに、上甑島地域ではキビナゴのさばき機械、下甑島地域で

は急速冷凍機、フライヤー及びミキサーを整備し、水産加工の充実を図っている。

漁港整備においては、市の管理漁港である小島・青瀬・片野浦・瀬々野浦漁港については、施設の長寿命化を図るための機能保全計画を策定し、補修工事等に努めている。県が管理している中甌・平良・藺牟田・手打漁港については、県が行う港湾整備に対して負担金を拠出しているところである。海岸保全対策として、海岸漂流物の除去に対しての支援を行っている。新規就業補助や担い手育成対策として就業定着支援事業による漁具・漁船の建造等に対する支援や利子補給等の支援を行っている。

合併以降、甌島地域において実施した水産業界関係への補助等の総事業費は、参考までに12億7千万円であり、この一部を市も負担しているところである。このような事業を展開しているが、今もなお厳しい状況にあるということは、十分理解しているところである。ついては、今後も皆様方や漁家の声を聞きながら、漁業の中心となる甌島地域の水産業界発展の中核となる甌島漁協の要望等について、一緒に検討しながら、引き続き甌島地域の漁業振興について積極的に取組んで参りたい。今後も何かあれば遠慮なく申し出ていただきたい。

## 総括

### 【岩切市長】

長時間にわたって多くの御意見をいただき、感謝申し上げます。

各地区コミュニティ会長の方々が、それぞれの地域の課題・展望についての要望があった。また、色々な方々から御意見もいただいた。

市としても、何とかして市と同じ一体感の醸成を持つべきであるとの甌島に対する思いは、当選以来変わっていない。

御意見のうち、日常生活についての課題の中で、津波については予報があるので、津波が来たらまずは高台に避難していただきたい。道路網についても県道・市道・林道・農道があるが、できる限り実態に沿えるように県には要望し、市でできることは逐次、実施していくということを御理解いただければありがたい。

川内港港湾計画については30年前に改定して、現在に至る外国航路としてコンテナ船が行き交うようになった。今後、大型港湾にしようと考えている。それに伴い、フェリーも川内港発着が望ましいと考える。これは、航路改善協議会を設置して決めることになる。絶対条件として、島民の皆様がフェリーも川内港にという御意見であれば、川内港に移転できるのではと考える。同じ市にフェリー発着所ができることによって、色々な補助制度を設けることができると考える。いよいよ川内港長期構想検討委員会がスタートする。交通網を含めて、考えていかなければならない。今後、御意見をいただければありがたい。同じ市民として、同じ市の港に着くようにできれば、色々な制度を活用できるのではと考えている。

次に、水産業界と観光業産業が共に成長していければという御意見について非常にあ

りがたい御意見である。甑島で新鮮な魚を食べて、また行ってみたいという仕掛けをしていかなければならない。現在、一次産業が疲弊していると感じる。水産業だけではなく、農林業も同じだと感じている。この所得を上げるためには、六次産業化に取り組まなければならないと考えている。従って水産業についても、釣れた魚を高く購入していただければいいが、現状はそううまくいっていない。所得を上げるためには、甑島で加工して、付加価値を高めることが大事であると考えている。下甑島を含めて六次産業化に取り組んでいただいた水産業の方々もいらっしゃる。市だけが取り組んでも長続きしないと考えるので、皆様方も若者が取り組むことができる産業を生み出して、皆で協力していく必要があると考える。

地域でも絆を大切にされ、万が一という時も皆で力を合わせていくということが大事であると考えている。そして、生活する上でも力を合わせていくということが大事であるので、その部分は地元として頑張っていたいただきたい。市としても最善の努力をして参りたい。

色々な問題は地区コミュニティ協議会長を通じて、何でも申し出ていただきたい。できるだけお聞きし、判断をして参りたい。